

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	1. ラオスにおいて障害者の安定収入向上を目指し、障害者指導員による持続可能な技術移転を促進する。 ・ 障害当事者指導員候補生の給料が平均130ドル以上である。 ・ 障害当事者指導員候補生達により、会計管理が行われている。 2. ラオス社会、とりわけラオス企業に向けて障害者就労の理解・啓蒙を広め、障害者就労のサポート企業を増やす。 ・ 現在、ラオス国内外40社以上と提携することが出来ており、障害者就労を促進するためのサポート企業数は順調に増えている。
(2) 事業内容	(ア) 技能訓練指導員養成研修 ①車椅子製造・修理・販売、福祉リハビリ機器製造指導員養成研修 ・ 2014年8月8日～11日 日本人専門家 対象4人 日本人専門家より、性能の高い車椅子（電動車いす含む）修理とメンテナンス方法の指導、及び効果的な車椅子及び福祉機器の販売方法、販路拡大のためのノウハウ講習などが行われた。 ・ 2015年6月2日～5日 ラオス人指導者による車椅子バスケット用車椅子メンテナンス方法と修理技術講習会。定期的に教育スポーツ省、ラオスパラリンピック委員会が顧客となり、競技用車椅子のメンテナンスを受注することになり、その車椅子の基本修理、メンテナンス方法指導が行われた。 ②ベーカリー指導員養成研修 ・ 2014年8月20日～27日 日本人専門家 対象6人 日本人専門家により、既存の商品の作業確認、品質管理方法指導、新しいレシピの提案等が行われ、数種の試作品を作った。 ・ 2015年6月11日～15日 日本人専門家 対象6名 日本人専門家より、既存の商品の作業確認、品質管理方法の指導に加え、新しい焼き菓子、プリン、シュークリーム等の指導が行われた。 ・ 2015年3月より、知的障害者支援センターと連携し、ニーズ調査ミーティング、1カ月にわたる見学会の実施を経て、7月より知的障害者支援スタッフの受け入れを開始した。既存の指導員候補生たちが知的障害者スタッフに役割を分担して、指導しながら、共に働いている。 ③美容研修 ・ 2014年8月14日～18日 日本人専門家 対象5人 日本人美容専門家によるカット、カラー、縮毛矯正を中心とする技術理論講義、相モデルでの実践、専門家の施術の見学、実際の顧客に対する実践指導等が行われた。ラオス国立医療リハビリテーションセンターのろう学校生徒たちも研修に参加した。 ・ 2014年11月13日～21日 日本人専門家 対象5人 日本人美容専門家によるカット、カラー、縮毛矯正を中心とする技術理論講義、相モデルでの実践、専門家の施術の見学、実際の顧客をモデルにした実践指導等が行われた。 ・ 2015年2月1日～8日 日本人専門家 対象5人 日本人美容専門家によるカット、カラー、縮毛矯正を中心とする技

術理論講義が行われた。また新たにブリーチ、鮮やかな色のカラーの指導も行われた。ラオス国立医療リハビリテーションセンターのろう学校生徒たちも研修に参加した。

・ 2015年5月26日～6月3日 日本人専門家 対象4人
日本人美容専門家によりカット、カラー、縮毛矯正を中心とする技術理論講義が行われた。また、日本の美容エステの方法も紹介され、施術方法を学んだ。

④ I T印刷研修

・ 2014年8月20日～27日 日本人専門家 対象4人
日本人専門家による、名刺作りを中心とする印刷物の作成、編集作業の指導が行われた。

・ 2015年6月2日～12日 日本人専門家 対象3人
日本人専門家により名刺、パンフレットを中心とする印刷物の作成、編集作業の指導が行われた。また、エクセルを用いた印刷物の編集方法も学んだ。

(イ) 技能訓練指導員へのOJTによる仮想就労の場を提供しビジネス訓練を常時行う

・ 日常的に当会技能訓練ワークショップにて、実際のビジネスとして、訓練を行っており、顧客への接遇方法や販売、マーケティングの知識などを習得し、指導員として必要な技能を日々のOJTで学び、また研修員に対して模擬指導も実施している。

・ 様々なイベントにブースを出店し、各部門のサービス、商品販売、紹介や広報、障害者就労支援の啓発を行っている。

(ウ) タウンミーティングの実施

・ 2014年8月7日、ベーカリーワークショップのある村の村役場で、村長をはじめ、地域住民、関係者50名に対し、事業の説明、クッキーの試食、障害者就労の可能性や協力関係についてのミーティングを持ち、地域に根差した障害者就労支援の当会の活動のサポーターとして引き続き協力関係を構築することで合意した。

・ 2014年9月17日、美容ワークショップのある村の村役場で、村長をはじめ、地域住民、関係者たち35名と障害者就労、ワークショップの運営やサポート体制、障害者就労の意義と啓発について協力要請を行い、地域住民がサポーターとして美容ワークショップを引き続き支えていく協力の合意形成が行われた。

・ 2014年12月11日、技能研修ワークショップ所在地近隣の住民43名を招待しタウンミーティングを開催し、障害者就労の意義と障害者を持った人たちと共に暮らすインクルーシブ社会の構築の重要性を議題に意見交換会を行った。

(エ) ビエンチャンをベースとしている国内外企業・団体に向けた障害者就労促進や啓発ミーティングの実施、プレゼンテーションによる当会前事業の成果・障害を持つ研修員の技術力の高さをアピールし、企業内のCRS事業に組み入れる交渉

・ 定期的に提携する企業または新規民間国内外企業を訪問し、当会の事業を説明、特にクッキー製造販売、美容施術提供、IT研修の

	一環である印刷技術研修「名刺作成事業」を通じて、企業との提携を模索し、当会技能研修に参加している障害を持つ研修員の技術力の高さ、生産品の質の高さを企業や民間団体に向けて積極的にアピールを行っている。ラオス・ビエンチャンをベースとするラオス国内外民間企業もCSR事業への参入、協力の意義は十分に浸透していて、当会が3年に渡って積み上げてきた障害者の高い技術力や生み出された成果品である高品質な製品を提供することにより、企業は興味を示し、連携を承諾するケースが48あった。更に提携企業の開拓を日々行っている段階である。 (オ) 技能訓練指導員の本邦研修 2014年10月7日～20日 ①ベーカリー研修 研修生2名 研修先：ルブラン（洋菓子店）、恵比寿お菓子屋「ぱれっと」（障害者の働く場）、スワンベーカリー、（大手宅配便会社の障害者就労特例子会社）、大松ベーカリー、パティスリー磯崎、東京ラスク等 研修を通じて、日本の質の高いクッキー生産現場、作業の効率化、販路拡大の方法、販売技能、衛生管理、接客態度、商品開発、商品ディスプレイ方法などを学んだ。 ②美容研修 研修生2名 研修先：代官山 VEGA 美容室、山野美容学校、フェイシャルエステワミレス、高岡美容室、mailo（美容室）、COME（美容室）等 美容室、美容学校で実技の勉強をし、就労意識を学び、美容室を訪問し、衛生管理、接客態度、物の配置、空間の使い方などを学んだ。
(3) 達成された成果	(ア) 高い技能の障害者指導員が育成される ①ベーカリー部門 ・顧客への製品満足度アンケートの結果（5段階満足度調査）、ほぼ100%の顧客から品質、製品管理方法、パッケージデザインや値段等、評価5を得た。障害者が作る慈善事業の製品という今までの障害者就労の在り方から「品質が高く尚且つ他の製品に劣らず正当に競合し評価を得た美味しいクッキー」という評価を得ている。ここ数年で主なターゲットであるビエンチャン市内の顧客にもその認識がしっかりと根付いてきた。障害者が作ったクッキーだから購買するという慈善事業ベースの顧客動向から「美味しいから購買する」という評価に基づいた成果は障害者によるビジネスの成功例として内外から評価を受けており、当会の障害研修生も励まされている。 ・ラオスで事業を展開する民間のカフェ4件より、カフェ独自の商品を共同開発してほしいとのビジネス依頼を受け、障害当事者指導員と共に商品を開発中である。育成されている指導員たちの技術の高さが認められた結果である。 ・本邦研修に参加した若い一人の障害当事者指導員候補生は、今期プロジェクト開始時には性格的にとても内気であり指導員候補生としての自信がまだ持てない状況であった。本邦研修に参加する研修生選考の際、日本人ベーカリー専門家とも話しあった結果、若いながらも技能や資質に関しては申し分なく将来性は大いにあるとのことで本邦研修参加者としてこの指導員候補生が選ばれた。本邦研修

ではラオスと日本の環境の違いからか、研修内容が時に高度で理解を超え、積極的に学ぶというよりは戸惑っているという印象を受けた。しかし、帰国後、指導員として成長を見せ、クッキー製造作業を率先して行い、リーダーシップを随所に発揮し、今では難しい作業も中心的に行っている。本邦研修の成果が効果的に出た結果となった。また本指導員候補生は日本で見学と実習を重ねたラスク試作品作りを中心となって担っている。以前は自由な発想で新しいレシピに挑戦することがなかなかできなかったが、今回はお菓子というより、おつまみに近い、ラオス人が好みそうな出汁の味が効いたものや、濃い味で辛いものを作って、試行錯誤していた。このように独自のアイデアを駆使し商品化に向けて、指導員候補生全員が積極的に事業をけん引していこうという意志が醸成されつつある。

② I T 印刷部門

・指導員候補生は技術的にはまだまだ改善の余地はあるが、美容やベーカリー部門と連携し、パンフレットや名刺、看板デザインなど実際の OJT の業務委託注文を通じて、指導員として新規研修生が技能研修ワークショップに参加する際は P C 基礎操作等を指導しながら、注文を受けた製品を完成させるといった受注⇒生産⇒納品というビジネスサイクルを事業で経験し、ビジネス能力に磨きをかけている。当会事業の裨益者となる障害当事者はほとんどが初等教育あるいは全く教育を受けてこなかった研修生であり、研修生たちはパソコン操作に必要なアイコンなどを理解するための英語力もない。パソコン自体に触れたことがないような研修生である。しかし当会プロジェクトの I T 印刷部門指導員候補生の受けてきた教育レベルも同様であり、研修段階を経て、丁寧に育成され、日々の実務の中でパソコンを使うことで、着実に技術は上がってきた。2015 年 3 月より、企業、商店、小売店より、名刺作成の受注を徐々に受けることができるようになった。

③車椅子製造・修理・販売、福祉リハビリ機器製造指導員養成研修日本人専門家より、性能の高い車椅子の修理とメンテナンス方法の指導、及び効果的な販売方法、販路拡大のためのノウハウ講習などが行われたが、ラオスは現在上記製品を求める顧客層が高齢者となり、ラオス社会の高齢化が当会車椅子及び福祉リハビリ機器の新たな顧客層として広がりを見せている。大家族主義のラオスにとって家族の中には必ず数名の高齢者がおり、特に富裕層のラオス人家庭で在宅による高齢者ケアを行っている家族が増えており、車椅子が必要となってくるケースが多々ある。実際、数台車椅子の受注があった。また長期滞在の外国人の中でも高齢者も多く車椅子や歩行器のような福祉機器の需要が増えてきた。当会からは既に 5 名の研修生が独立し小さいながらも車椅子修理製造技師として独立している。また彼等が指導者候補生として後進の障害研修生に技能指導を行っている。障害者がメンテナンスを担当している店舗としてロコミで少しずつ顧客が増えており、スポーツ競技用車椅子の修理メンテナンスから、電動車いすの受注、福祉機器の販売まで、今後もニーズのある高齢者を抱える家庭や裕福な障害当事者家族からいかに需要を拡大していくか販路拡大というセールスを中心としたビジネス研修・広報が重要となっており指導員候補生が販売戦略を積極的

に考えている。

④美容部門

・ 当会美容部門で指導員候補生がろう者であることから、ラオス国立医療リハビリテーションセンター内のろう学校より、学校内での職業訓練の実施が要請された。週1回、当会美容研修指導員候補生が講師となり、生徒たちに美容技術を教えている。ラオスではろう者の社会自立に向けた就労支援が少なく、ろう学校卒業生の進路に関し全く就労のロールモデルが構築できていないという困難な状況がろう学校側から当会に説明された。在校の聴覚障害学生を当会美容技能研修の新規研修生として受け入れる連携が始まり、当会美容技能研修の指導員候補生にとってはまさに指導のOJT経験を積める良い機会となっている。ろう学校に向けて当会指導員候補生の指導の満足度に関するアンケート調査を実施し、当会指導員候補生の指導技能は概ね良好という回答であったが、改善点もあり、その結果を基に当会の指導員養成研修の内容を改善し、指導力向上、技術力向上につなげている。ろう学校であるため、手話によるコミュニケーションの問題や、当会指導員候補生自身の指導方法も再度見直し、指導員としての技能を向上させるため、技術内容の更なる把握と指導員としての自覚を促すようなリーダーシップの育成も意識しながら指導を徹底している。

（イ）企業への支援策提言（CSRの促進）が出来るようになる

・ タイ全土でカフェを展開している大手石油会社と提携が決まり、ラオスにある当カフェにクッキーを卸すこととなった。当会として企業への支援策提言（CSR促進）の一環として障害者支援の重要性を説明し、良く理解してもらい、販売額の100%を還元してもらえる契約を結ぶことができた。

・ ラオスの小規模運送会社に障害者就労の必要を説明し、社員の名刺印刷を受注することができ、継続的な契約を結ぶことができた。

・ ラオス国立大学に学生のボランティア活動を提案し、2015年4月より、学生ボランティアたちが大学でのクッキー販売に加わっている。

・ 2014年11月と2015年2月にラオス国営放送の取材を受け、障害者就労支援の紹介を行い、企業の協力の重要性を説明し、協力している企業のCSR活動の事例の紹介と啓発を行った。

・ ラオス国立大学のフードコート会社に大学生向けの啓発イベントを共同開催することを提案し、2015年5月26日に障害者就労の可能性を啓発するため、ブースを設置し、クッキー販売、美容チームによる技術紹介、技術体験が行われた。

（ウ）事業運営の完全自立が達成される

・ ペーカリー部門は2014年8月1日から2015年7月31日の1年間で、パック換算で33,565袋の販売実績がある。売り上げは268,559,500キップで、支出153,789,500キップ、そのうち研修生への配分は73,638,000キップであり、経営的にも売り上げの約3分の1の粗利を計上することができ、健全な経営状態である。日々の製造管理、販売管理、会計

	事務もラオス人指導員候補生及びスタッフたちが業務を分担して行っている。指導員候補生4名を含め、知的障害者スタッフを含めた7人態勢で常時業務を運営している。 ・美容部門は1,957名の来店者があり、売り上げは90,714,000キップであり、そのうち日本人美容専門家が指導に来た際のOJTでの売り上げが68,896,000キップである。支出は47,970,000キップで、そのうち研修生への配分が13,688,000キップであった。事業の完全自立が達成されるために顧客管理や利益管理等の経営部門の黒字化に向けて指導員候補生が率先して事業をけん引している。 ・IT印刷部門は売り上げが2,754,000キップしかなく、完全自立まではまだ道のりは陰しいが、当会内の他部門（ベーカリー&美容）からパッケージ印刷、パンフレット、リーフレット印刷・デザインなどの受注もあり、ADDP ワークショップ内でも仕事の受注もあり、更に質の高い印刷物の成果を一般企業や団体、個人への顧客獲得にアピールし、現在の部門間の支え合いから、より発展的に顧客数を増やしていく努力を相乗効果で今後も販路拡大を目指していく。 ・車椅子福祉機器製造・修理・販売部門は車椅子10台（車椅子バスケット車（タイ車いす工房との協働プロジェクト）、車いす修理（3台）、杖4本を販売し、売り上げは21,555,000キップである。製造に関して原材料がラオス国内で高くなっており、なかなか中国製の車椅子と競合しながらビジネス的には競争が激しいが、障害当事者がメンテナンスを行う当事者目線のビジネスというインセンティブを売りにきめ細やかなサービスを全面に出しラオス人のためのラオス人による車椅子福祉機器製造・修理販売の顧客層を今後も熱心なセールスで増やしていくことで盤石な完全自立を目指している。 ・ベーカリー部門本邦研修参加者は、日本の受け入れ先の製菓現場で学んだ動線を意識した作業スペースの確保を参考にして、帰国後、ワークショップの作業台や器具の配置を変更した。作業効率化を意識することができるようになり、製菓技術の向上だけでなく、経営全体にも目を向けるようになった。 （エ）サポート企業が増加する 2014年8月1日から2015年7月31日の間に、提携している企業及び小売業者、飲食店等は21から40以上に増加した。当会ワークショップから積極的に企業にアプローチをするが、12月、1月あたりから、当会の商品を口にした経営者や担当者から連絡があり、提携に至るケースが増えているため順調にサポート企業数は増加している。
--	--

(4) 持続発展性	・ベーカリー部門は健全な経営状態であり、助成金に頼らずとも今後も維持発展させることは可能である。美容部門は日本人美容専門家への依存度が高く、日本人専門家の協力以外にラオス人スタッフだけで、月4,000,000キップ以上、現在の売り上げの220%に売り上げを伸ばす必要がある。IT印刷部門は更に持続発展的にラオスの企業や団体、個人からの名刺やパンフレットの受注を延ばし、月300ドル以上の利益を上げる必要がある。車いす部門は高齢者に向けた福祉機器や障害者スポーツ車いすバスケットボールや電動車いすの受注（単価の高いもの）を定期的に売り上げる必要が更に必要であり、セールス能力やタイの車いす工房と連携した海外への顧客受注の可能性を模索することを考え、利益アップにつなげることに努力する。 ・各部門とも売り上げ、収支の管理をラオス人スタッフたちが行っており、コスト意識、当事者意識も根付いており、ワークショップを自ら運営していくことは可能である。 ・ラオスで当会事業が着実に草の根の地域で受入れられ、一般のラオス人が当会ワークショップ各部門の顧客となっている。ラオスの一般の学生や近隣の人々が、ラオスの団体・企業が、ひいてはラオス社会全体が支える活動として、当会事業が大きく成長してきているため、1年後の事業終了時には、持続発展性としては理想的な着地点が見いだせると確信している。
------------------	---